

13 水銀に汚染された魚の処分と水俣湾埋立工事

【水銀に汚染された水俣の魚や海は、どうなったの？】

チッソ工場は1932年(昭和7)から1968年(昭和43)までの36年もの間、水銀を含んだ排水を流していました。その間、工場排水に混じって水俣湾に流れてたまった水銀の量は70~150トン、またはそれ以上ともいわれ、水俣湾には水銀を含んだ大量のヘドロが海底にたまり、水銀に汚染された魚がいました。

そこで、熊本県は1974年(昭和49)に、水俣湾内から汚染された魚が出て行かないように仕切網を設置して、汚染された魚を取り除く作業を始めました。その後、1997年(平成9)に仕切網を取りはらうまでの23年間に、487トンもの魚をとって、処分しました。

また、水俣湾の海底にたまった水銀を含んだヘドロを取り除いて親水護岸の内側に封じこめて埋め立てる工事を行い、14年の期間と485億円をかけて、1990年(平成2)に工事は終了し、58.2ヘクタール(東京ドーム約13.5個分)の広い埋立地ができました。今は、「エコパーク水俣」として、環境と健康をテーマにした緑豊かな公園に整備されています。



14 埋立工事後の水俣湾

【今の水俣の海は、どうなってるの？】



工事後、水俣湾の魚に含まれる水銀はだんだん少なくなりました。1997年(平成9)、熊本県は「水俣湾の魚介類は安全である」と宣言し、水俣湾の入り口に設置していた仕切網をすべて取りはらいました。

そして、漁業も再開され、水俣湾の魚を釣って食べたり、泳いだりすることもできるようになり、サンゴの生息が確認されるほどきれいな海になりました。

今も、水俣湾の魚や海水に含まれる水銀について調査を続けていますが、安全であることが確認されています。